



静脈採血

頻度 ★★★ 重要度 ★★★ 難易度 ★☆☆ 1分 1人

はじめに

1. 基本中の基本

研修医になってまずしなければならないのが静脈採血である。臨床手技の中でも基本中の基本といってよい。静脈採血は、看護師や臨床検査技師も資格としては施行が認められているが、困難な場合は医師に助けが求められることも多い。

当然ながら痛みを伴う手技であり、技術的に劣った者がすると、痛みが増したり、何回も繰り返したりする。痛い思いをさせられた医師に対しては、患者からの信頼が低下するのみならず、パラメディカルからの評価も下がり、その他の技能や能力に対してまで疑念が及び、後の業務に支障をきたすこともあるといっても過言ではない。確実に習得しておこう！

2. まず準備

不足品を取りに走るなどないように、準備万端で臨もう。

3. 声かけで不安をのぞく

採血されるほうは何をされるかわからない状態であり、痛みに対する不安もある。自分の動作の逐一を告げて、患者の不安を少しでも軽減しよう。また、神経損傷やその他の重篤な合併症を防ぐため、患者の声を聞く癖をつけよう。



4. 感染防止対策*1

患者への一般細菌の感染を防ぐとともに、採血者への感染を防ぐ注意が必要である。わが身を守るために、手袋の着用を守り、採血後のリキャップはしないようにしましょう。

*1 ある500床規模の病院の1年間の針刺し事故届け出内容

負傷箇所	職種	原因
右手第2指	看護師	リキャップ時
右手拇指	研修医	リキャップ時
左手	看護師	患者の手が当たったはずみ
左手第1指	医師	リキャップ時
手	看護師	点適時の針交換の際
左手拇指	看護師	リキャップ時
左手第4指	医師	手術中の縫合時
左手第3指	医師	リキャップ時

1年間の届け出数であるが、実際はこの数倍はあるものと思われる。やはりリキャップ時が多い。検査技師の届け出例はなかった。

必要な器材

- ①注射針
- ②シリンジ*2
- ③サンプル容器*3
- ④アルコール綿*4
- ⑤手袋（ラテックス）*5
- ⑥駆血帯*6
- ⑦肘枕
- ⑧廃棄物入れ
- ⑨テープ



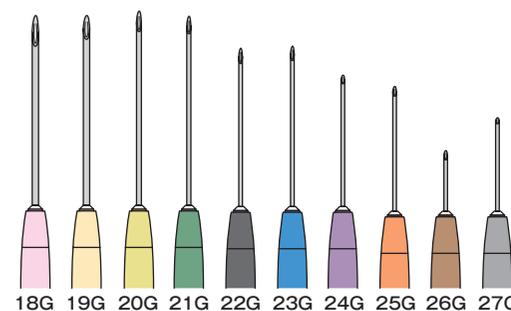
1. 注射針の構造



針の太さはゲージ (G) で表し、1インチ (2.54 cm) の何分の1かを表している。20Gは1インチの20分の1で1.20 mm。長さ2.4インチ (60 mm) 以上の針はカテラン針と呼ばれ、深部の穿刺などに使われる。

2. 注射針の種類と太さ・用途

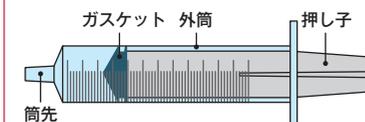
静脈採血には21～22Gの針を用いる。小児、血管の細い場合は23G。それより細いと溶血の可能性が高くなる。



針の太さと用途

G	外径 (mm)	色	用途
18	1.2	ピンク	輸血
19	1.1	クリーム	輸血
20	0.9	黄色	静脈注射, 静脈採血
21	0.8	ディーブグリーン	静脈注射, 静脈採血
22	0.7	黒	皮下, 静脈, 筋肉注射, 静脈採血
23	0.6	ディーブルー	皮下, 筋肉, 静脈注射, 小児静脈採血, 動脈採血
24	0.55	ミディアムパープル	皮下注射
25	0.5	オレンジ	皮下注射
26	0.45	茶色	皮下注射
27	0.4	ミディアムグレイ	皮内注射

*2 シリンジの容量は1～50 mlまでであるが、静脈採血の場合は凝固を避けるため20 ml以下がよい。



*3 ラベルを確認。

*4 最近ではセラチアなどの院内感染を防止するため、1回使用量をバックしたものが使われている。

*5 1回ごとに変えるのが望ましい。

*6 クリップがついているものについていないものがある。

3. 翼状針 (トンボ針)

短時間の留置固定ができるため、採血時動いてしまう恐れのある患者や、比較的多量の採血が必要でシリンジを交換する場合に便利である。

